



グリーンロータスフラワー

いのちを生きる

平成から令和に掛けて、沖縄の高校生が、名前も告げずに多額の交通費を貸してくれた方を探し出してお礼をした話は、日本中をパツと明るくあたたかくなりました。

それに前後して数多くの幼児虐待や高齢者の危険運転による悲惨な事件が続くなか、次にご紹介する内容は少し勇気が湧いてくるものです。

高知市の「わんぱくこうちアニマルランド」のカープくんは、約十年前エサ用の金魚として生まれた約二百匹の中の一匹でした。彼らはコウノトリやカモなど鳥の餌として池に放たれ、次々と仲間が食べられました。カープくんは生き続けました。今度はジャガーの池でも生き残り、さらにオオサンショウウオの冷たい水槽の中に、最後の十匹の仲間と共に入れられました。ここでも生き延びました。そして彼(?)は岩のコケやオオサンショウウオの脱皮した皮を食べ、なんと全長二十五cmになっていました。

二〇一六年夏、絶好調のプロ野球広島カープが優勝目前になり、二十五年ぶりの優勝が体の大きさの二十五cmと同じ数になったことや体の色から、彼は「カープくん」と名付けられました。

サンショウウオと一対一となったカープくんは、食べられそうになるとサッと逃げたり、かわしたりして懸命に生き、二年前の夏、とうとうサンショウウオが先に死にました。

危機は去り、カープくんは現在三十cmになって、今は温かい水槽で小さな金魚たちとゆつくりと暮らしているそうです。(朝日新聞デジタル・笠原雅俊氏)

カープくんは他の百九十九匹のいのちの上に生き続け、多くの名もないエサ用金魚たちの、いのちの尊さを訴える希望の星になりました。

小さな金魚も、食肉になる大きな家畜も同じ結末を迎えます。肉食動物の頂点に立つ私たちに、いのちに敬意を払い感謝して食事をいただかなければならないと、カープくんが教えてくれます。

(株)溝口祭典 溝口勝巳